

『支援プログラム』

どんぐり発達支援寒川



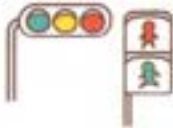
どんぐり発達支援寒川 支援プログラム

作成日 令和6（2024）4月1日

法人理念	職員は子どもと保護者、家庭に寄り添う保育者であること。		
支援方針	・ 小さな集団、落ち着いた環境の中で、一人ひとりの健やかな心身を育てよう。 ・ ひとの言葉や心の声に、気持ちを通わせたいと思う関係を大切にしよう。 ・ 自然の中で、子ども自身が知る・見る・やってみる機会を多く作ろう。 ・ 言葉の選び方、使い方の幅が広がるよう、子どもと一緒にたくさんの本を読もう。 ・ 子どもと一緒に、世界は広いということを想像して楽しもう。		
営業時間	9時15分～16時30分	送迎実施の有無	無

プログラム	支援内容（5領域）				
	①健康・生活	②運動・感覚	③認知・行動	④言語・コミュニケーション	⑤人間関係・社会性
あいさつ	生活リズムの確立（①健康・生活） ・ ハイタッチや言葉などそれぞれの発育に合わせた表現方法で挨拶を交わし、身体の動きや発声、表情等から心と体の健康状態を汲み取ります。 信頼関係の構築（④言語・コミュニケーション） ・ 毎日の挨拶は、子どもと安心感を持てる接点を作ります。「おはよう」「こんにちは」「さようなら」など、簡単な挨拶から、子どもたちは“今から何かが始まる”という期待感と同時に安心感を持ちます。 自己肯定感の向上（⑤人間関係・社会性） ・ 挨拶をすることで、子どもは“自分が大切にされている”と感じやすくなります。挨拶を交わす大切さを教えることで、日常生活でのコミュニケーションスキルを高め、人との関わりを大切にすることが育てていきます。				
身支度	衛生管理（①健康・生活） ・ 手洗いや排泄など、日常的な衛生習慣を乳幼児期から基本的なルーチンとして教えることで、生涯の健康的な生活習慣を支えます。 身支度（①健康・生活） ・ 自分のものを大切にする気持ちや、物を失くさないように注意を払うことは、年齢とともに発達します。子どもが自分で服を選んだり着替えたりする身辺自立のスキル習得を適切に支援し、自己管理能力を育てる一環とします。				

	年齢に応じた認知能力（③認知・行動、④言語・コミュニケーション） 子どもは基本的な言葉の理解や物の名前を、自分の身の回りのことから覚えはじめます。後の学齢期での論理的思考、問題解決能力の発達における基礎の力にもなります。「連絡帳を出す」「シールを貼る」など、動作と言葉が一致するよう補助しながら、一連の始末を教えます。
はじまりの会  こうえん 	見通しを持つ（③認知・行動） - 絵やシンプルな文字、その日の活動を視覚的に示すスケジュールボードなどを使い、どんな活動があるのかを簡単に説明することで、子どもたちがその日の流れを予測し、活動の順番を理解できるようにします。 名前や天気、気分を聞く（④言語・コミュニケーション） - 呼称に対して返事をしたり、年齢を答えたり、季節や今日の天気を確認したり、質問に対して、子どもたちにジェスチャーや言葉での表現を促します。これにより、自己表現力や他者とのコミュニケーション能力が育まれます。 集団参加の促進（⑤人間関係・社会性） 『はじまりの会』のような集まりでは、子どもたちが一緒に活動を始めることで、集団参加の大切さや楽しさを学びます。協調、協力、自己表現、コミュニケーションを育む場となり、子どもの社会性や自信を高めます。
読み聞かせ  	言語能力の発達（④言語・コミュニケーション） 語彙力の向上: 読み聞かせは、子どもが新しい言葉やフレーズに触れる良い機会です。絵本に出てくる単語や表現を繰り返し聞くことで、言語理解の土台が作られます。 音の認識と発音の向上: 絵本を読みながら、語尾や音の響きに注目することで、子どもは言葉のリズムや音の違いを学びます。これにより、発音や聴覚認識の能力が育まれます。 認知力の発達（③認知・行動） 注意力と集中力の向上: 絵本のストーリーや絵に注目して、しばらくの間集中して聞くことが求められるため、注意力や集中力が養われます。短い時間の読み聞かせが、集中力の基盤を作ります。

	● 記憶力の強化: 繰り返し絵本を読むことによって、ストーリーや登場人物を覚えたり、物語の展開に気づいたりします。この反復が記憶力を高めます。 情緒的な安定 (⑤人間関係・社会性) ● 安心感の提供: 読み聞かせの声を聞いたり、一緒に絵本を見て触れ合ったりすることは、情緒的な安定を促進します。
戸外活動  	健康な身体作り (①健康・生活) ● 戸外で元気に遊ぶことは、体力だけでなく、骨や筋肉を強化し、体全体の能力を高めます。歩く、走る、ジャンプする、ボール遊びなどは、筋力やバランス感覚を養います。お腹の空くりズムや安眠など健康的な生活習慣を身につけ、将来的に運動や遊びを楽しむ意欲が育まれます。 感覚統合 (②運動・感覚) ● 感覚の発達: 自然の中で気温や風を感じたり、草の感触を楽しんだりする遊びは、感覚発達に役立ちます。触覚、視覚、聴覚、嗅覚などの五感を刺激し、子どもの感覚統合を促進します。 ルールの理解 (⑤人間関係・社会性) ● 社会的なスキルの発展: 他の子どもたちと一緒に外で遊ぶことで、協調性やコミュニケーション能力が育まれます。社会的なルール（順番を守る、協力して遊ぶ）を学び、集団での行動を理解することができます。 ● 公共のルールを知る: 公園や道路などで他人と接する中で、乳幼児は公共のルールやマナーを少しずつ学びます。たとえば、『歩道を歩く』『道路では車が通るから注意する』『公園での順番待ち』など、公共の場での行動規範を知ることが出来ます。 注意力と危険回避の訓練 (③認知・行動) ● 危険な場所や行動に対する認識: 戸外活動を通じて、危険を避けるために注意を払う力を育てます。信号を守る、道路を渡るときに周囲を確認する、車に近づかないなど、自分の行動を少しずつコントロールし、安全に過ごす意識をつけていきます。

室内ワーク



製作



運動能力（粗大運動）の発達（②運動・感覚）

- 限られたスペースで体を動かす“手押し車”のような活動は、左右の腕と脚を連動し、協調させて動かすため、運動の協調性が養われます。
- “手押し車”身体を支えるためにバランスをとる必要があります。これにより、立つ・歩く・走るなどの基本的な運動スキルが発達し、日常生活で自分の身体の使い方に対する理解が深まり、動きがスムーズになります。
- 進行方向を見ながら、身体をうまく動かして進むことで、視覚的な注意力や空間認知能力が発達します。

運動能力（手先の器用さ）の向上（②運動・感覚）

- 手指の運動スキル:筆記具を使って線を引いたり、図形や文字を書いたりすることは、指先の筋肉を鍛え、手指の協調性を高めるために効果的です。手先の細かい運動能力が発達します。

認知力の発達（③認知・行動）

- 視覚的認知能力の向上: 文字や、文字らしいものをかく活動は、形や線を認識し、構成する能力を養うのに役立ちます。文字や数字の形状を理解し、模倣して描こうとする過程で、視覚的な認知能力が高まります。
- 形の理解と記憶力の向上: 形を記憶し繰り返し模倣することで、次第に自分で書けるようになっていきます。ひらがなへの興味が湧くとともに、記憶力や形の識別力が高まり、抽象的な思考の基盤が作られます。

目と手の協調の強化（③認知・行動）

- 製作活動では目を見たものを手で再現する必要があり、この過程で目と手の協調が育まれます。絵を描く、ハサミで紙を切る、粘土で形を作るなど、細かい手作業を通じて、指先の筋肉を鍛えます。
- 後の読み書きや日常生活動作（ボタンを留める、ホックをかけるなど）に必要なスキルが向上します。

達成感と自信の向上（⑤人間関係・社会性）

- 何かを作り上げる経験から得る達成感は、自己肯定感や自信を育む大切な要素です。完成した作品を見て、子どもは“自分でできた”と感じ、その後の学びや挑戦に対する意欲が高まります。

リズム 	音を使った表現 (②運動・感覚) 音楽を聴いて音の高低や、テンポの違いからリズムを楽しむことで、聴覚を鍛えます。また、ダンス表現から自分の身体の部位を覚えて、自由に動かす楽しさを味わいます。
おやつ 	味覚の発達 (①健康・生活) - 様々な食材を使ったおやつは、味覚の発達を促します。甘い、酸っぱい、塩辛いなど、異なる味を感じることで、食に対する感覚を豊かにします。季節のフルーツなど新しい食材を試し、味の違いを学ぶことで、食べ物に対する好奇心を持つようになります。 リラックスと安心感 - 食べ物を取ることで、体がリラックスし、感情が安定します。おやつの時間は、他の活動の前後に落ち着く時間を提供します。 自分のペースで食べる - 自分のペースでおやつを食べることで、自己調整を学ぶことができます。食べ物を選び、食べる順番を決めることから、自己管理能力も育まれます。
お楽しみ おやつ (調理)  	触覚の発達 (①健康・生活) - 食材を触ったり、ちぎったり、混ぜたりすることで手触りや温度の違いに気づき、触覚が発達します。柔らかい果物や硬いせんべい、素材のままの煮干しなど、様々な食材に触れ五感を鍛えます。 作業の順番を学ぶ - 調理は段階的に進める必要があるため、「まずこれをして、次にあれをする」という順番を学ぶことができます。役割別にスプーンで材料を混ぜたり、計量カップで測ったりする際には、作業の手順を理解することが求められます。 責任感と自立心: - 自分の役割を果たす中で責任感や自立心を育てることができます。希望がかち合ってしまったときには譲り合いを体験し、思いやりの心を養います。 協調性の発展: - 友だちと一緒におやつを食べることで、食べる際のマナーや順番を待つことを知り、他者との関わり方のひとつを学びます。集団の中で役割を持って行動する楽しさを、体験します。

かえりの会



認知的な発達の促進（⑤人間関係・社会性）

- 帰りの会で活動の内容を再確認することで、記憶力や注意力が高まり、学習内容を定着させることができます。

記憶の整理:

- 今日行った活動を一つひとつ振り返ることで、記憶が整理され、学んだことが長期的に覚えやすくなります。「今日は何をして楽しかったか」「何を学んだか」を聞いて話をするすることで、子どもは思い出しながら記憶を再構築します。

注意力の向上:

- 振り返りで、活動中に集中したことを再認識し、どの場面で意識を向けていたのかを理解することができます。振り返りが定期的に行われると、注意力を向ける習慣が育ちます。

避難訓練



基本的な行動の習得（⑤人間関係・社会性）

- 避難時に「静かに歩く」「手をつなぐ」「先生の後についていく」など、日常生活に通じる基本的な動作を習得します。

自己保護の意識を育む

- 避難訓練の中で頭を守る行動や、大きな音がする場所から離れることなど “自分を守る” という意識を育みます。

安心感の提供

- 乳幼児は不安を感じやすい年齢ですが、避難訓練を通じて、実際に何をするかを繰り返し学ぶことで、緊急時に対する不安を減少させることができます。日頃の訓練の経験から、「何が起こるのか」という予測が立てられ、安心感につながります。

家族支援 『どんぐりファイル』子育てサポート



どんぐり



●S-M 社会生活能力検査 (Social-Maturity Scale) は、子どもの社会生活能力を評価するための検査で、主に発達段階に合わせた社会的な行動や自立度、協調性などを測定します。

どんぐり発達支援寒川では、項目として挙げられている6つの領域別を参考に、日々の行動観察を行っています。支援を考えやすくしています。記録は1ヶ月ごとにまとめ『どんぐりファイル』として、保護者にシートを提供しています。

S-M社会生活能力は、知能の働きを必要とする側面もある反面、子どもが社会環境の中で学習して獲得する能力です。学習によって得られる部分が大きいため、学習の“機会”が与えられることが重要とされています。

『どんぐりファイル』は、子どもが出来るようになったこと、かつて苦手だったが現在の変化、成長発達の到達度などの内容から、保護者向けの子育てサポートツールとして活用されています。保護者の管理のもと、在籍園や医療機関へ提供するなど、子どもの生育歴としても多く利用されています。

●S-M 社会生活能力検査の項目別評価



1. 【身辺自立 Self-Help / 衣服の着脱、食事、排泄など】

評価項目例:

- 身の回りのこと（手洗い、服の着脱、トイレ、食事の準備や片付け）
- 自分の持ち物の取り扱いがわかる（連絡帳、水筒、タオル等）

観察例:



- 「自分で服を着替える際に、ズボンを正しい向きで着ようとしている」
- 「自分で水筒の蓋をあけて、水分を摂ることが出来る」
- 「トイレに行ったあと、手洗いも自発で行うことができる」

2 【移動 Locomotion / 自分の行きたい所へ移動する】評価項目:

評価項目例:

- 歩行の安定性やスムーズさ（歩き方、走り方、ジャンプなど）
- 階段や段差の昇降の能力
- 場所や空間を理解し、指定された場所に移動する能力

観察例:

- 「階段を上る際に、手すりを持って自分で昇り降りできるようになった」
- 「公園で遊ぶ際に、走ることができ、転倒することが少なくなった」
- 「職員の指示を聞き、隣の部屋に自分で行くことができた」



3. 【作業 Occupation / 道具の扱いなど】

評価項目例:

- 食事やおやつで使用する道具（はし、スプーン、フォーク、コップなど）
- 日常生活で使う道具（クレヨン、ハサミ、えんぴつなど）
- ボタンを掛けたり外したりできる



観察例:

- 「絵を描く際に、クレヨンをしっかり握って、線を描くことができた」
- 「ハサミを使うときに、刃が自分に向かないように使っていた」
- 「シャツのボタンを自分で留めることができた」

4. 【意思交換 Communication / 言葉や文字などによるコミュニケーション】

評価項目例:

- 指さしや言葉を使って自分の気持ちや意図を表現できるか
- 言葉以外の手段（ジェスチャーや表情）を使って意思を伝える能力
- 相手の言葉や指示を理解し、反応できるか

観察例:

- 「嬉しいときに笑顔を見せたり、怒ったときに顔をしかめたりした」
- 「何かを欲しがるとき、指をさして伝えていた」
- 「『公園に行きましょう』と話す、おもちゃを片付けた」



5. 【集団参加 Socialization / 社会生活への参加の具合】

評価項目例:

- 他の子どもたちと一緒に活動を楽しみ、積極的に参加できるか
- 他者と協力して物事を進めることができるか



観察例:

- 「集団遊びに参加していた」「みんなでの活動に興味を持って参加していた」
- 「順番を守ってすべり台をすべっていた」

6. 【自己統制 Self-Direction / わがままを押さえ、自己の行動に責任をもって目的に方向付ける】

評価項目例:

- 感情や欲求をコントロールし、衝動的な行動を抑えることができるか
- 自分の気持ちを伝えたり、相手の気持ちにも気づけたりするか。

観察例:

- 「お友達が先に遊んでいるのを見て、しばらく我慢して待つことができた」
- 「自分の思った通りにいかないときにも、癇癪を起こさなかった」「切り替えの時間が短くなった」
- 「少し時間をかけて取り組んだり、助けを求めたりして問題を解決できた」
- 「おもちゃを貸すとき、最初は譲りたくなかったが、相手の表情を見て遊びをとめて考えていた」



家族支援 モニタリング



モニタリングにおいて、「成長の到達度」「変化」「これからの課題」をお話します。家庭での遊びや日常的なやり取りについても伺い、途切れの無い支援を密に連携させることが目的です。

1. 成長の到達度

「成長の到達度」とは、子どもが現在までに達成した発達の水準や目標に対する進捗を指します。モニタリングでは、これまでの成長を振り返り、その達成度合いを評価します。

- **発達の各領域での到達度:** 子どもの言語、社会性、運動能力、認知能力、情緒の発達など、さまざまな領域での成長を評価します。例えば、言葉の発達が進んだか、社会性を育んで友達と遊べるようになったか、運動能力（歩行やジャンプなど）がどのように向上したかなどです。

2. 変化

「変化」とは、子どもが一定の期間内でどのように変わったか、または成長の過程で見られる新しい特徴や課題を指します。モニタリングで変化を把握することは、支援が効果的かどうかを判断するために重要です。

- **ポジティブな変化:** 例えば、言葉が増えた、情緒が安定した、集団で遊ぶことができるようになった、指示に従えるようになった、などの変化が見られる場合、それは支援がうまくいっている証拠です。こうした変化を記録し、保護者や教育者と共有することで、子どもがどのように成長しているのかを具体的に理解できます。
- **課題としての変化:** 反対に、困難や新たな問題が浮き彫りになる場合もあります。たとえば、「社会的な不安が強くなった」「行動に反抗的な態度が増えた」など、発達の過程で新たな課題が現れることもあります。こうした変化もモニタリングで捉え、適切な支援を考えることが重要です。

3. これからの課題

「これからの課題」は、子どもが次に取り組むべき発達課題や支援の方向性を指します。

個別の発達課題: 各子どもには異なる発達のペースがあります。例えば、言語発達が遅れている子どもには言葉を増やすための支援を強化する、社交性が低い子どもには友達との関わりを増やすためのサポートが必要です。これらの個別課題に対して、どのような支援が求められるかを明確にします。

- **次のステップを示す:** 例えば、「自分の持ち物を整理する」「5分間の集中を保つ」「お友達とおもちゃを共有できるようになる」など、子どもが次に目指すべき目標を設定し、それに向けて支援を行います。これにより、子どもは次のステップを意識して学び進めます。
- **進捗の追跡と調整:** 課題は一度設定したら終わりではなく、進捗を追跡し、必要に応じて調整を行います。支援内容を、見直すこともあります。

移行支援



子どもが次のステージや環境に適応できるように、寒川町共通の引継ぎシートを使い移行支援を行います。移行期における不安やストレスを軽減し、ポジティブな自己認識と自信を育むことを目標とします。保護者と密接に連携し家庭での支援方法を統一したり、保護者が新しい環境にどのようにサポートできるかを話し合うことで、内容の充実を図ります。

寒川町共通移行支援シートの主な目的

1. 支援の継続性を確保：
 - 子どもが支援を受けている過程で、次の段階に進む際に必要な情報（健康、発達、行動、学習、療育内容など）を提供し、支援の途切れを防ぎます。
2. チーム間での情報共有：
 - 異なる支援機関（保育、療育機関、学校等）のスタッフが情報を共有し、子どもに最適な支援を提供するための基盤を作ります。
3. 次のステップに向けた具体的なアクションプランを設定：
 - 子どもが次の環境に適応できるよう、どのような支援が必要か、どのような課題が残っているかを整理します。
4. 保護者や関係者への情報提供：
 - 保護者や地域の支援者にも、子どもの進捗やニーズを明確に伝えることで、家庭と支援機関が協力しやすくなります。

地域支援・地域連携



子どもやその家族が地域社会での生活を支え合いながら、より良い環境で生活できるようにするために取り組みます。地域資源を活用し、地域の文化やコミュニティ活動を通じて支援を提供することが出来ます。

- **地域とのつながりの強化：**地域の行事や活動に参加することで、子どもは地域社会に対する理解と愛着を育むことができます。また、親子で地域の活動に参加することで、家庭と地域のつながりが強化されます。
- **社会性や協調性の向上：**地域のイベントや活動に参加することで、子どもたちは他の子どもたちや大人と交流し、社会性や協調性を養うことができます。
- **文化的な理解の深化：**地域の伝統や文化に触れることで、子どもたちは地域の歴史や文化に対する理解を深め、自己肯定感を育むことができます。
- **教育的支援の強化：**図書館をはじめとした地域資源を活用することで、子どもたちは学習面でも支援を受けることができ、知識やスキルを向上させることができます。

職員の質の向上



年1回、事業所及び職員の自己評価、利用者アンケートを実施しています。

外部研修、社内研修の実施、保育室との合同で行事を行っています。合同行事を通じて、家庭的職員は、お互いの支援方法やアプローチを学び合うことができます。異なる視点からの支援方法を理解し実際に取り入れる相互の学びがあります。

協働とコミュニケーションの強化

- 合同行事を行うことで、異なる職種の職員が協力し、コミュニケーションを深めることができます。チームワークが向上することで、子どもたちに対する支援がより効果的になり、職員同士の信頼関係も強化されます。

実践的な学び

- 合同行事では、職員が実際に子どもたちと一緒に活動を行うため、実践的な学びが得られます。子どもたちの反応を観察しながら、現場で求められるスキルや支援方法を身につけることができます。

職員のモチベーション向上

- 研修に参加することで、職員は自身のスキルを向上させることができるため、モチベーションが向上します。自己成長を感じることができるとともに、仕事への誇りややりがいが高まるようにしています。

課題に対する解決策の模索

- 施設外研修では、職員が直面している問題や課題についてディスカッションし、解決策を見つけることができます。実際の事例を通じて、問題解決能力や対応力を高めることができます。

主な行事等



誕生日カード、寒川神社散歩、お花見散歩、公園遊び、水遊び、※夏祭り、芋ほり、※クリスマス会、獅子舞、節分、※卒所・進級を祝う会 等

※家庭的保育室との合同行事

子どもたちの成長を支えるために

どんぐり発達支援寒川では
～5つの育ちの視点を大切にしています～

私たちは 子ども一人ひとりの個性や発達のペースを大切にしながら、
「今、この瞬間」の姿に寄り添った支援を行っています。
子どもたちが安心して過ごし、のびのびと自分らしく育っていけるよう、
意識して日々の関わりを密にしています。

① 健康・生活

安心できる生活リズムや基本的な生活習慣が身につくように、
毎日の生活の中で無理なく自然に学べる環境を整えています。



② 運動・感覚

身体を動かす楽しさや、五感を通した気づき・驚き・
発見を大切にしながら、
豊かな身体感覚を育てています。



③ 認知・行動

「やってみたい」「できた！」という気持ちが
育つような関わりを心がけ、
自分で考え、行動する力を少しずつ伸ばしています。



④ 言語・コミュニケーション

安心して言葉を交わす中で、自分の思いや考えを伝える力を育てています。
一人ひとりのペースを大切にしながら、丁寧に関わります。



⑤ 人間関係・社会性

友だちや大人との関わりを通して、
信頼関係や思いやりの気持ちを育みながら、
社会性の基礎が育っていくよう支えています。

